

# 保護中: [FANS限定記事] トレード三種の神器：相場観・価格・時間

🕒 2021年4月24日 🕒 2021年5月22日 📌 FANS限定記事, [チャート分析](#), [テクニカル用語・指標](#), [トレード技法](#), [日経平均](#)

トレードの成否を分けるのはエントリの精度です。高精度のエントリは勝率増・収益増に直結します。高精度のエントリを行う秘訣は、ホットスポット（確実な儲けをもたらす安値または高値）を見つけることに尽きます。ホットスポットは相場の「時間」に注目することで見つけやすくなるのです。

トレードは「価格」の差を利益に変える行為ですが、この差を生むのは「時間」です。「価格」ばかりを意識して「時間」を味方につけないエントリはなかなか勝てません。言い換えれば、エントリのタイミングが成否の鍵を握っています。誰しも、どうすればベストのタイミングでエントリできるかを知りたいはずです。では、どうすればいいのでしょうか？

もくじ

1. サイクルはホットスポットを見つける方法
2. 「価格」と「時間」
3. チャートで使用する移動平均線について
4. トレードの全体像
  - 4.1. エントリ精度の重要性
5. サイクルの基礎
  - 5.1. 時間枠に応じたサイクル
  - 5.2. 上昇サイクルと下落サイクル、LTサイクルとRTサイクル
  - 5.3. サイクルのピークの位置が重要

### 5.3.1. LTサイクル

### 5.3.2. RTサイクル

## 5.4. サイクルだけでざっくりした相場情勢が読める

### 5.4.1. 基調：上昇サイクルと下落サイクルの数と連続性をチェック

### 5.4.2. 情勢判断：ピークの状態・LT/RTの別をチェック

## 5.5. 矛盾を孕むサイクルの実例

## 6. クリモネのトレードスタイル

### 6.1. 基本はスキャルピングによる細かな利益の積み上げ

### 6.2. <日足トレンドレスでも分足トレンドあり>が日常茶飯事

### 6.3. 「時間」要素のチェック：15分サイクルの常時追跡

### 6.4. 「価格」要素のチェック：節目を把握する

#### 6.4.1. 節目として機能する諸要素

#### 6.4.2. 2021/5/6 GW朝の準備：意識すべき節目の例

### 6.5. トレンドラインの作るパターン

#### 6.5.1. 強気パターン

#### 6.5.2. 弱気パターン

#### 6.5.3. レンジ相場とチャンネル

### 6.6. ホットスポットでのエントリー

#### 6.6.1. ロングエントリー

#### 6.6.2. ショートエントリー

### 6.7. ホットスポットよりおいしい二番底・二番天井でのエントリー

### 6.8. 両建て戦法の活用

## 7. 15分足サイクルの実際例（2021.4.21-23の日経先物）

### 7.1. ショートエントリー

### 7.2. ロングエントリー

### 7.3. 実際のエントリーテクニック

#### 7.3.1. エントリーポイント1

#### 7.3.2. エントリーポイント2

### 7.4. トレードシミュレーション（2021.4.30の例）

## 8. 日経現物に見るサイクル

8.1. 月足：44-45ヶ月周期

8.1.1. 相場観1（メイン仮説）

8.1.2. 相場観2（ブル延伸シナリオ）

8.2. 週足サイクル：20週前後

8.3. 日足サイクル：20日前後

8.4. 15分足サイクル：30本前後

スポンサーリンク

## サイクルはホットスポットを見つける方法

単純化すれば「時間」の周期性を利用すればいいのです。一見ランダムに動いているように見える相場ですが、詳しく追跡すると一定の周期性をもって波打っていることがわかります。周期性と波動。これが相場を支配する「時間」で、クリモネは**サイクル**と呼んでいます。

むずかしく考えることはありません。相場は、安値—高値—一次の安値—一次の高値—・・・の連なりです。漠然と眺めていれば単なる上下動でも、ある安値に注目し、「その安値—高値—一次の安値」をひとかたまりと捉えるとサイクルと見なせます。相場を「安値—高値—一次の安値」のサイクルで区切ることによって相場の見え方が変わり、安値または高値で精度の高いエントリーを行えるようになります。理屈は非常に単純です。

- 安値の次には必ず高値が来る。これほど確実なことはない。それ以上下げない安値付近でロングポジションを建てれば確実に勝てる。
- 高値の次には必ず安値が来り。これも確実。それ以上上がらない高値でショートポジションを建てれば確実に勝てる。

トレーダーの仕事の大半は「それ以上下げない安値」「それ以上上がらない高値」、つまり**ホットスポット**を特定することだけと言ってもいいくらい重要です。ロング向け安値、ショート向け高値、この2つのホットスポットを相場の「時間」面に注目して探り当てようとするのが、サイクル追跡によるトレードなのです。

# 「価格」と「時間」

ここでいう「時間」とは価格差を生む相場の波動のこと。自然界の波と同じく、相場にも一定のリズムがあります。多くのトレーダーが勝てないのは、相場のリズムを無視して「価格」のみでエントリーするからです（いわゆる値ごろ感）。こうした「何となくエントリー」では、あるときは勝てても別のときは負け、成績が安定しません。エントリー後、価格が思惑と逆行して含み損となり、含み損の解消に労力を使うようになると、精神的にも財政的にも負荷が増します。これはストレスが昂じるだけでなく、機会損失にもつながります。機会損失は「最適なエントリータイミングを逃す」ことであり、獲得できたはずの利益を取り逃すことを意味し、表面化しない含み損と同じなのです。

本記事の眼目はこうした無手勝流の何となくトレードの罠を抜け出し、サイクルを利用して適切な「タイミング」に適切な「価格」でポジションを建てるノウハウを伝授することにあります。方法がわかったら、あとは実地訓練です。実トレードで利益を出し、勝ちグセをつけ、いちいち考えなくても身体が瞬時に「そのとき」に反応する動物勘の次元まで高めてください。サイクルトレードにおいて最後にものを言うのは、経験と習熟の成果としての「動物勘」です。動物勘でひらめくと、勘に即応して「考えるより先にエントリーする俊敏さ」を身につけることができます。そして常勝トレーダーへの道が開けます。

トレードは「価格」と「時間」のゲーム。相場の波動に乗ることが先決。頭と尻尾を当てることはあまり重要でない。毎回、波の一部でも「確実に」獲れば常勝トレーダーになれる。

## チャートで使用する移動平均線について

クリモネの分析では、日足は日経現物の数字（25DMA、75DMA、200DMAなど）を、時間足は<http://investing.com>の日経CFDの数字（50HMA、15分足の50本線、100本線など）を使用しています。これはサイクル分析を後者で行っているための措置ですが、特に矛盾や不都合は出ないと思います。逆に言うと、クリモネのトレードは日経CFDの数字に最適化されているとも言えます。

※日経CFDのDMAは日経現物のDMAとズれているので使いません。混乱を避けるためです。

※本記事内の各チャートをクリックすると別ウィンドウに拡大表示され、見やすくなります。

## トレードの全体像

クリモネは入れ子の意識で相場に接しています。いちばん外枠には数年から数十年に及ぶ相場観があり、大局の上か下か、ヨコヨコかをイメージします。ここは絶対間違えてはならない部分です。建物の基礎に相当しますから。

相場観の捉える大局の内部には「ブル相場」とか「ベア相場」とか呼ばれる年単位のトレンドが含まれています。ブル相場やベア相場の中には上昇局面、調整局面、移行局面（レンジ相場）が含まれます。各局面の中には日足単位、分足単位のトレンドが含まれています。こうしてマクロからミクロに落とし込んでいくと、現在位置が確かめやすくなります。

トレードとは、この入れ子状態に絡み合った状況の、特定の瞬間を切り取って利益に結びつける行為です。

### 現代相場は恒常的な金融相場

現代の相場は実体経済の景気動向よりも、中銀の金融緩和（資金供給）が価格を上昇させる力が強いので、右肩上がり基本トレンドです。人間が勝手につくった金利（利子）のせいで、お金には増えることが宿命付けられているので、これは頷けることではないでしょうか。ベア相場は「期間限定商品」のような位置づけなので、大局の相場観としては**ロング中心**でいく、という結論になります。以下に説明するサイクルも、基本的には**ロングエントリーに向けた手法**です。

## エントリー精度の重要性

分単位を収益源することも可能なら、日単位、週単位、月単位を収益源とすることも可能ですが、重要なのはマクロの日単位、週単位、月単位で値幅を獲ろうと考えていても、ミクロの局面であるエントリーをいい加減に行わないこと。マクロ次元の収益は最初から狙って獲れるものではありません。むしろミクロ局面でのエントリー精度を高めることで、ポジションをマクロ次元に持ち越す確率を上げていくしかないのです。

含み損を何日も抱えて過ごすことはメンタルのストレスが高まるだけでなく、含み損がなければ実行できたであろう他のトレードをしにくくします。つまり、エントリーを疎かにすると機会損失が増え、いつまで経っても取ったり取られたりを繰り返す悪循環に陥るわけです。

クリモネのトレードスタンスは明確です。自分をスキャルパーとかデイトレーダーとかスイングトレーダーとか規定しません。スキャルピングで利益を積み上げるのが基本線。うまくいったスキャポジは必ずスイングポジに発展します。

#### クリモネトレードの金科玉条

スイングポジはスキャルピングの延長線上にある。まずスキャルピングのエントリー精度を上げることに全力を傾けよう。

## サイクルの基礎

トレードの「価格」要素については最後に触れるとして、まず「時間」要素について説明します。

「時間」（エントリーのタイミング）を測るツールとしてクリモネが常用しているのが**サイクル**です。サイクルは相場を律するリズムのことで、ひとつの谷と山と次の谷で1つのサイクルを構成します。また相場は途切れなく連続しているので、あるサイクルの終点は次のサイクルの起点となります。



起点⇒ピーク⇒終点（緑矢印と赤矢印のひと組）でひとつのサイクル。終点は次のサイクルの起点となる。

相場は、個別銘柄には銘柄ごとの、日経平均やTOPIXなどの指数には指数ごとの周期性が存在し、相場の時間面を統制しています。けっしてランダムには動いていないのです。

## 時間枠に応じたサイクル

また時間の区切り方に応じて月足には月足の、週足には週足の、日足には日足の、分足には分足のサイクルが存在します。クリモネは以下のように使い分けています。

- 月足サイクル・・・数年単位の長期分析で現在の位置を知るときに使います。使用頻度は少ないですが、大トレンドを把握していないと大局的な相場観を持たませんので要所要所でチェックしています。日経平均の月足サイクルは**44-45ヶ月**が標準です（少なくともアベノミクス以降はそうになっています）。
- 週足サイクル・日足サイクル・・・数日から数ヶ月単位の情勢を確認するために頻繁にチェックしています。日経平均の週足サイクルは**20週前後**、日足サイクルは**20日前後**が標準です。
- 15分足サイクル・・・トレードのエントリを決めるために常用しています。日経平均の15分足サイクルは**30本前後**が標準です、強いトレンドがあるとき、逆にトレンドがまったくないときは拡張するケースが目立ちます（**40-50本**）。

# 上昇サイクルと下落サイクル、LTサイクルとRTサイクル

---

起点と終点の価格の位置関係に応じてサイクルには、上昇サイクル、下落サイクル、そして、まれにフラットサイクルの3種類があります。

- 終点価格 > 起点価格なら上昇サイクル・・・相場は上昇傾向にあります。
- 終点価格 < 起点価格なら下落サイクル・・・相場は下落（調整）傾向にあります。
- 終点価格 = 起点価格ならフラットサイクル・・・相場には方向感がありません。ただし、フラットサイクルは稀にしか発生しません。

## サイクルのピークの位置が重要

---

### LTサイクル

---

サイクル全体の中でピークがサイクルの前半に来ていればLT（Left-Translated、ピーク左寄り）のサイクルです。ピークが早めに訪れることは**下落サイクルの基本特性**です。

### RTサイクル

---

ピークがサイクルの後半に来ていればRT（Right-Translated、ピーク右寄り）のサイクルです。ピークが遅めに訪れることは**上昇サイクルの基本特性**です。

※稀にサイクルの中央にピークが来ることがあります。この場合、SYM（Symmetrical、ピーク中央）と呼びます。しかし、話が複雑になるので、本記事ではフラットサイクルとSYMのことは無視して説明を進めます。

サイクルを見るとき特に重要なのは、サイクルが上昇サイクルか下落サイクルか、サイクルのピークはLTかRTかの二点です。以上を踏まえればサイクルには以下の4つの組み合わせがあることがわかります。

- RT上昇サイクル・・・順トレンドで矛盾を孕んでいないサイクル

- LT下落サイクル・・・順トレンド矛盾を孕んでいないサイクル
- LT上昇サイクル・・・矛盾を孕んだサイクル（ときに下落転換を示唆）
- RT下落サイクル・・・矛盾を孕んだサイクル（ときに上昇転換を示唆）

## サイクルだけでざっくりした相場情勢が読める

---

サイクルを使えば相場情勢を簡単に判断できます。下のチャートを見ながら説明をお読みください。

### 基調：上昇サイクルと下落サイクルの数と連続性をチェック

---

サイクルが上昇か下落かを簡単に見分けるには、**安値（起点）と安値（終点）を比較**してください。緑矢印のように起点より終点が高ければ上昇サイクル、赤矢印のように起点より終点が安ければ下落サイクルです。

### 情勢判断：ピークの状態・LT/RTの別をチェック

---

チャート例の場合、上昇サイクル3つに下落サイクル1つ。上昇サイクルが3連続した後に下落サイクルが来ました。現時点では**上昇基調である**ことがわかります。

「安値と安値の関係」は上昇サイクルか下落サイクルかですでにわかっていますから、次に「高値と高値の関係」を見てみましょう。各サイクルのピークを比較してください。

チャート例の場合、29315のピークの後、順上がりになっていません。次の高値29250は29315より安く**上昇サイクルの割りに力強さがありません**。その次のサイクルでは高値こそ前回の250を上回りましたが、最初の315を超えていません。**上昇力が強いとは言えない**と判断できます。

最後のサイクルになると高値を切り下げるとともに、安値まで切り下げて下落サイクルになってしまいました。やはり「**上昇力が強いとは言えない**」の判断が当たったようです。

では、流れは下落基調に変わったのか？それは**節目となった安値**を比較すればわかります。最初のサイクルの起点は29855、最新の安値は28990。まだ高いままです。この時点では、下落基調になったとは判断できません。

### RT上昇とLT下落が素直：LT上昇とRT下落は矛盾含み

以上の情勢をもっと簡便に判断する方法がLTとRTです。

上昇サイクルなのにLTというのは「買いが早く息切れした」状態で強くない状態です。イケイケにはなれません。逆に最初の上昇サイクルはRTであり「買いがサイクル後半まで続いた」強い状態です。本当に上昇力が強い相場なら、次のサイクルもRTとなって高値を更新していくはずなのです。

このように「上昇」「下落」「LT」「RT」の4つを組み合わせるだけで相場情勢を判断できますので、ぜひ覚えてください。

- 上昇サイクルなのにLTなら上昇継続は疑わしい。
- 下落サイクルなのにRTなら下落継続は疑わしい。
- 上昇サイクルでRTなら順トレンド。上昇は継続していくはず（あくまで「はず」）。
- 下落サイクルでLTなら順トレンド。下落は継続していくはず（あくまで「はず」）。



# 矛盾を孕むサイクルの実例

以下のチャートをご覧ください。このサイクルは25日間で1サイクルを形成。起点の谷より終点の谷が高いので上昇サイクル。上昇サイクルなら右肩上がりに推移するのが順トレンドなので、ピークはサイクルの後半に来る（右寄りになる）はずですが、前半に来ています。

これは買いの力が強くなく、サイクル後半まで持続しなかったことを示唆しており、上昇トレンド維持に疑問符がつく状態です（ただちに下落するとは判断できません。上昇維持が疑わしいという程度です）。上昇サイクルなのに上昇力が不足している。これを「矛盾」と呼んでいます。したがって、次のサイクルでピークの30720を更新していく流れにはなりにくいと、前もって想像することができます。

Published on Investing.com, 24/Apr/2021 - 9:52:47 GMT, Powered by TradingView.  
日経225先物, JP225, D  
MA (200, close, 0)



1つのサイクルは谷から山に昇り次の谷に降りて完結する

## クリモネのトレードスタイル

基本はスキャルピングによる細かな利益の積み上げ

相場は日足水準で見るとトレンドのある状態より、トレンドのない状態（レンジ相場・ボックス相場・ジグザグ相場）の時間が長く、意識してスイングポジション（数日から数週間保持）をつくることに適していません。強いトレンドが発生していれば、エントリー即スイングポジションとなる幸運も訪れるでしょうが、あくまでも例外です。

これはスイングポジをつくれないう意味ではありません。スキャルピングのつもりでポジションを取った後、運よくトレンドが発生すれば、持ち越し可能なスイングポジションに育ちます。クリモネの感覚では、**スイングポジはスキャポジの延長**なのです。

## <日足トレンドレスでも分足トレンドあり>が日常茶飯事

同じことをサイクルの視点で見てください。

15分サイクルを基準に立てたスキャポジは、本来、15分足のトレンド内で処理すべきポジションです。しかし15分足のトレンドが60分足や日足のトレンドに発展すれば、それは期せずしてスイングポジに変身してくれます。

また、15分サイクルなど短めの足をベースにエントリーすると、日足レベルではトレンドレスでも、より短い単位のトレンドを取りやすくなります。たとえば、現在のように明白な上昇トレンドの相場においても、短い足においては悠然とカウンタートrendのショートポジションを立てることができます。

### トレードのヒント：クリモネの経験則

- ◆15分サイクル：上昇サイクルも下落サイクルも**5連続**が最大。
- ◆15分足のローソク足：陽線（陰線）**12連続**が最大。10以上連続するのは非常にトレンドが強いときだけで、通常は**5連続**くらいが限度。

基準に5分足や3分足を使ってもかまいません。30分足や60分足でトレードしたって問題ありません。要は自分に合った時間枠でサイクルを追跡し、「価格」を考慮しながらポジを立てればいいのです。

◆日足・週足では上昇トレンドでも、調整局面は必ず来ます。その場合ショートの方が簡単に儲かります。

◆ジグザグやトレンドレスの相場でも、短い足は必ず山や谷を作っていますから、50円や100円を取ることは可能です。トレンドレスだからと諦めず、サイクルの終点に来る極値付近を狙えば、思わぬ大漁にあずかれます。

◆15分サイクルでは起点からピークまで**250-300円**上げるのがふつう。一山300円と覚えればいいでしょう。頭を柔軟に切り替え、ロング・ショートの両刀遣いでトレードに臨むほうがストレスを感じずに日々を過ごせます。これホント。

## 「時間」要素のチェック：15分サイクルの常時追跡

---

クリモネが15分サイクルを常用しているのは、経験上いちばん使いやすいからです。**8:45-15:15は15分足26本相当の時間**ですから、日中の取引時間はちょうど15分サイクル1つ分なのです（※もちろんサイクルの起点・終点が必ず寄りと引けと一致するわけではありません）。

さきほど**15分足では30本前後で1サイクル**と書きましたが、強いトレンドがあるとき、トレンドがなく尻の状態にあるときなどはこれより長くなる傾向があります（40-50本）。逆に途中で急騰や急落が挟まって25本未満で終わってしまうケースもあります。

サイクルを使う上でいちばん大事で、しかもむずかしいのが実際の相場における**起点と終点の見極め**です。慣れるには実地訓練（実トレード）を繰り返すしかないのですが、覚えておいてほしいのは厳密なカウントは不要だということ。

サイクルってどこで始まってどこで終わるのかわかりにくいと思う方は、**直近の過去で最も明確な安値**を起点としてカウントしてください。また、サイクルがどこで終わったかわかりにくい場合は、終点を仮置きして様子を見てください。カウントが合っていれば、起点からピークを見つけに上がっていくはずです。

大事なのはカウントの精度ではなくエントリの精度です。

## 「価格」要素のチェック：節目を把握する

---

クリモネはツールは少ないほうがいいと考えています。どこまで上がるか、どこまで下がるかを知る上で日常的に監視しているのは、大きな意味での**節目**だけです。節目は相場の流れの中で有意の上限価格・下限価格のことで、節目を決める要素は以下のようにいくつも存在します。

複数の節目が同時に存在することになりますが、トレード上最も重視するのは**現在値の最も近くにある節目**です。直近の節目を超えるか超えないかがエントリーに直結するからです。

## 節目として機能する諸要素

---

### トレンドライン (TL)

相場の折り返し点となった高値と高値（または安値と安値）を結んだのがトレンドラインです。複数のトレンドラインが形成するパターンでトレンド継続や転換を探ります（パターンについて下記に別途解説します）。

### 高値・安値、支持・抵抗

相場の折り返し点となった価格水準。

- 直近高値（サイクルのピーク）
- 直近安値（サイクルの起点・終点）
- それ以上落下できない下値限界点としての**サポート**（支持）
- それ以上上昇できない上値限界点としての**レジスタンス**（抵抗）。29510円などの単独価格ではなく、29450-550円のように価格帯（ゾーン）を意識した方がいい場合もある。この場合は支持帯（サポートゾーン）、抵抗帯（レジスタンスゾーン）などと呼びます。

### フィボ（フィボナッチ・リトレースメント）

ざっくり**1/3押し（戻し）**、**半値押し（戻し）**、**2/3押し（戻し）**の価格水準を意識。とくに半値押し（戻し）はトレンド転換（あるいは底入れ）の重要なシグナルなので重視。

## SQ値（毎月第2金曜日寄りで決まる先物の清算値）

相場はSQ値を「記憶」しています。デリバティブは相場全体の価格設定を定義する重要な手段であり、機関投資家は日常的にSQ値を意識したトレードを行っています。仕切り役を果たすSQ値も重要な節目として機能します。

## 移動平均線（MA）

週足、日足、4時間足、60分足、30分足、15分足のすべてで、25、50、75、200の4種類をチェックし、節目として機能しているかどうかを探ります。その際、価格水準だけでなくお互いの位置関係、MAの向きも重要です。

## RSIとMACD（オシレーター）

いわゆる買われすぎ（売られすぎ）の指標としてではなく、**モメンタム（持続的買い圧・売り圧）**をの指標としての役割を重視しています。強いトレンドが発生している場合、RSI>70（あるいはRSI<30）で推移していても買われすぎ（売られすぎ）とは判断せず、モメンタムが継続するか、単発的に終息してしまうかに注目し、絶対水準（数値）はあまり気にしません。

また、オシレーターは**ダイバージェンス**の検出に利用すると効果が上がります。価格が上がっていてRSIが上がっていなければ買いを警戒します（ネガティブ・ダイバージェンス、NegDiv）。逆に価格が下がっているのにRSIが安値を更新しなければ（ポジティブ・ダイバージェンス、PosDiv）、エントリのときが迫っていると判断します。

## 2021/5/6 GW朝の準備：意識すべき節目の例

---

朝の押しは、ちょうどサイクルの終点に重なりそうなのでエントリチャンスでした。その際、意識すべき主な節目を書き出してみました（フィボなどは割愛）。少なくとも朝の段階でこれだけの準備をしておけば、狼狽えたり臆したりせずエントリできるようになるはずです（たとえば、節目ブレイク狙いのロング、実際のブレイク後の追撃ロングなど）。



## トレンドラインの作るパターン

日常的に現れるのが複数のトレンドラインが作る出す強気あるいは弱気のパターンです。これを活用することでトレンドの継続や転換を予測するのですが絶対視はいけません。そうなる確率が高いというだけで、100%そうなるわけではないからです。

主なパターンには以下があります。

### 強気パターン

ブルフラグ・・・上昇一服後に現れる、上値切り下げ・下値切り下げの高値持ち合い。下落チャンネルの形状になることもある。上昇トレンド継続を示唆。

アセンディング・トライアングル・・・上昇後に現れる上値切り上げの三角持ち合い。上昇トレンド継続を示唆。

フォーリング・ウェッジ・・・下落一服後に現れる。上昇へのトレンド転換を示唆。

ダブルボトム・トリプルボトム・・・

逆三尊・・・

## 弱気パターン

---

ライジング・ウェッジ・・・上昇一服後に現れる。下落へのトレンド転換を示唆。

ベアフラグ・・・下落一服後に現れる、上値切り上げ・下値切り上げの反発。上昇チャンネルの形状になることもある。下落トレンド継続を示唆。

ディセンディング・トライアングル・・・下落後に現れる上値切り下げの三角持ち合い。下落トレンド継続を示唆。

ダブルトップ・トリプルトップ・・・

三尊・・・

## レンジ相場とチャンネル

---

<未完>

## ホットスポットでのエントリー

---

相場が上昇トレンドなのか下落トレンドなのか、あるいは持ち合い、ヨコヨコなのか（いわゆるボックス相場、レンジ相場）によって建てる枚数や狙う枚数が変わります。原則として、上昇トレンドのときはロングの枚数を増やし、下落トレンドのときはショートの枚数を増やします。トレンドレスの場合は、自信度に応じて枚数を調整してください。値幅が出なくても確実に獲れると判断するなら枚数を増やしてもいいでしょう。

### クリモネの場合

◆トレンドレス状況：ミニ100-300枚（自信度に応じて調節）

◆上昇・下落トレンド状況：ミニ300-1000枚（自信度に応じて調節）

◆大きな節目（ここぞと思われる安値または高値）：ミニ1000-2000枚

## ロングエントリー

---

最も基本的なエントリーポイントは、サイクル終点（ホットスポット）で折り返し、上げ始めた時点でのロングです。

### 二番底と一呼吸の重要性

ただ、相場には**二番底を試す習性**があり、ホットスポットから一度上げ、またホットスポット近辺まで下げることが日常茶飯事です。これを意識して、最初のエントリーは控えめの枚数で入り、二番底確認後に追加します。あるいは、最初のエントリーは薄利で逃げ、二番底確認後に買い直します。

また、サイクルの進行状況によって狙う値幅や建てる枚数の軽重を工夫します。

- 下落サイクルが2つ以上連続し、最後がRTで矛盾を孕む下落サイクルだった場合などは、上昇トレンドへの反転で大きな値幅が狙えるので、入る枚数を増やします。大きなリスクを取る価値があると判断可能だからです。
- 逆に、RTの上昇サイクルが2つ以上続いた後では、そろそろ下落サイクルへ転換する確率が高いので枚数を減らします。

## ショートエントリー

---

ショートの場合は、サイクルのピークと思われる価格（ホットスポット）で上げ止まり、下げ始めた時点でエントリーするのが基本となります。

### 二番天井と一呼吸の重要性

二番底同様、相場には**二番天井を試す習性**があり、ホットスポットから一度下げ、またホットスポット近辺まで下げることが日常茶飯事です。これを意識して、最初のエントリは控えめの枚数で入り、二番天井確認後に追加します。あるいは、最初のエントリは薄利で逃げ、二番天井確認後に買い直します。

## ホットスポットよりおいしい二番底・二番天井でのエントリ

相場は上下動を繰り返しながら上げて（下げて）いきますので、高精度のエントリポイントはホットスポット（サイクル終点やサイクルピーク）だけではありません。むしろ、**いちばん安全確実に入れるのはホットスポット後に来る二番底・二番天井**（ときには三番底・三番天井・・・）なのです。これを意識することで、慌ててポジを手放したり損切りして逆ポジを獲るようなエラーを軽減できます。

実例をご覧に入れましょう。これは2021年5月21日夜間の相場です。クリモネの場合、サイクル追跡は15分足で行っていますが、実際にエントリする場合はもっと短い5分足、3分足、1分足を使ってピンポイントでエントリのタイミングを見計らっています。



いちばんおいしい高精度エントリポイントはホットスポットより、むしろ二番底あるいは二番天井

## 両建て戦法の活用

---

ロング、ショートどちらの場合も、万全を期すなら、利益の出ているポジションを持ったまま新たにその反対ポジションを建てる**両建て戦法**が有効です。最初から含み益の状態でもエントリーできるアドバンテージは想像以上に大きいのでぜひ試してみてください。

大きな枚数を動かしていると、つねに両建てでポジを動かしながら相場を泳ぎ続けるようになります。万が一の場合、反対ポジションが守ってくれる安心感があるので、翌日や翌週にポジションを持ち越しても、枕を高くして眠ることができます。

※両建て戦法については、別記事にする予定です。それだけの価値がある戦法だからです。

### まとめ：精度の高いエントリーに必要なこと

- 「価格」（節目）と「時間」（タイミング）の合せ技でエントリーを決める。
- 「時間」はサイクルで追跡する。その際、上昇か下落か、LTかRTか、その組み合わせが矛盾を孕むか孕まないかを意識する。疑わしい場合はエントリーをやめるか、少ない枚数でエントリーする。
- 「時間」の流れを意識すると「価格」のみ使った場合より、自信をもってエントリーでき、負けた場合も、その理由が把握しやすい。失敗する場合は、たいていサイクルのカウントが間違っているか、カウントは合ってもトレンド転換の意識が希薄すぎるのが原因。
- 両建ての有効利用を考えてほしい。含み益状態で反対ポジを建てるのは事実上の利益確定。その上でさらなる利益を追求できるのだから、両建ては逃げではなく攻めの戦法なのである。

## 15分足サイクルの実際例（2021.4.21-23の日経先物）

---

日経225先物, JP225, 15



※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

まず大前提としてサイクルは**ロングエントリー**に向けた手法です。エントリーの際には通常表示している15分足から、1分足や3分足に切り替え、エントリーのタイミングを待ち構えます。

## ショートエントリー

ショートに使えるわけではありませんが、以下の理由からオススメしません。

- ショートはサイクルのピークで入るべき。しかし、いまがピークかどうかを見極めるのは、いまが終点かどうかを見極めるより、はるかにむずかしい。エントリー精度は低くなる。
- そのため、ショートポジを取るときは、高値切り下げ、直近安値割れ、トレンドライン割れなどの**価格要素をベースにエントリー**の方が精度が上がる。その場合もサイクルが役立たないわけではない。サイクルのどのあたりでショートするかを知っていれば、ポジションの閉じ時の目安がつく。たとえば、上のチャートのエン트리ポイント4はショートのエン트리ポイントだが、サイクル終点に近いことがわかっている。陰線の長さから、これが急落パターンになる予想がつくので、短期でそれなりの値幅が獲れるだろうと想像できるはずだ。
- 高値切り下げの利用例  
もっと値幅を獲りたい場合は、黄色部分のRT: 29205とLT: 29190に注目。リアルタイムでは29190がLTだとはわからないが、前サイクルのピーク29205を超えられなかった事実はわか

っている。しかも状況は朝からの急騰が一段落したタイミングだ。さらに上昇していく可能性は高くない。そこで29190から下落し始めた時点で打診ショートを仕掛けてみるのが可能だ（ストップは20205超えの20210か215に置く）。

## ロングエントリー

---

ロングエントリーの精度を高めたいならサイクルのピークの位置と終点をつねに意識すべきです。RTかLTかを判断しつつ、サイクルの終点を見極めてください。よくわからない場合、自身が持てない場合は終点を仮置きして、しばらく様子を見ます。思惑通りにならないければエントリーを見送り、次のチャンスを待ちます。

実際のエントリーポイントは**終点から折り返した時点**です。相場は高速に動いているのでチャンス時間は長くありません。指値注文でなく成り行き注文でポジションを取るのが確実です。

### 指値と成り行き

習熟してくると、エントリーポイント1でクリモネがしたように、あらかじめ終点の価格水準を予測し、指値注文でエントリーすることも可能です。しかし慣れるまでは折り返し確認後の成り行きエントリーの方が安全確実です。

## 実際のエントリーテクニック

---

### エントリーポイント1

---

エントリーポイント1における行動を具体的に振り返ってみます。



※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

## 背景にあった相場観

- 当初の調整の下値目処は28800-700円くらいだった。この時点で「余分」な調整を行っているとの認識。
- 数ヶ月にわたって構築されてきたパープル神殿はそう簡単に崩れない。P4神域 (>29500) 決壊後、P3神域 (サポート28850くらい) とP3神域 (サポート28500くらい) へ戦場が移動。もしP3神域が決定的に崩れれば、P1神域 (サポート28000くらい) を試すことにつながるが、売りにそこまでの勢いはない。
- かりにP2神域が崩れ去れば、日足レベルの大きな下落につながり、むしろショートを考えるべきだが、そもそも、この急落に近い調整は多分にかがわしい (売っている根拠不明) と感じており、下値限界はP2神域サポート付近と判断。

以上から、28500付近 (オーバーシュートで400円台) は勝てる確率の高いエントリーポイントになる。

## 時間面の判断

15分サイクルの標準は30本。直近安値28535はサイクル26本目で発生。そこから切り返したものの、サイクル的には調整不十分な可能性が高い。次の押しを待つか、跳ね返された時点で「買いたい弱気」のショートを入れて両建て戦法を使うのが吉。

## 価格面の判断

P3神域（サポート28500くらい）がテストされているのでそろそろエントリーすべき。オシレーター（MACDとRSI）はPosDivを示現、これは価格の下落に見合った**売り圧力が消失しつつある**ことを示しており、ロングエントリーの補強材料。

## 結論

28500から下は惰性力の働いた余分な下落（オーバーシュート）であり、下落が加速する可能性が高いので通常の成り買いでは追いつかない可能性がある。そのため複数価格に買い指値を入れる注文方法を選択。具体的には420、415、410、400、380にそれぞれ600枚ずつ指値注文を入れた。最大3000枚のポジ。滅多にここまで大きなロットは張らないが、勝てる確率が高く、穫れる値幅も期待できるのでそうした。通常の戻りなら一山300円程度。オーバーシュートの反動で反発力が強めると500円はリバー。

※実際には期待値を上回る+800円の29205円まで、ほぼ一気に上昇。

## 実際のトレード

1. 最終的な急落場面の28520Sでショート1000枚。さらに下でロングするための両建て戦法。
2. 28420、415、410で買い指し注文成立1800枚。成り行きで410と420で200枚追加。平均単価だいたい415、合計2000枚。
3. 520Sを420で部分利確。
4. 420Lを460で部分利確。
5. リバウンドが確実になったと判断した時点で520Sは手仕舞い。
6. 相場は引けまで上下動で波打ち続けた。追撃スキャロング（500L、495L）で小幅利益を獲る。これは415Lを減らさず、夜間で利幅を伸ばすための措置。

## エントリーポイント2

エントリーポイント7における行動を具体的に振り返ってみます。

<未完>

## トレードシミュレーション (2021.4.30の例)

勝負どころでのトレードシミュレーションです。口座残高300万円、証拠金15万円、最大ミニ20枚の建玉可能なトレーダーが、1/2の10枚で勝負に出た想定になっています。初期ロットのストップは安値割れの750です（ストップアプトになった場合、 $10 \times 30 \text{円} = 3 \text{万円}$ を失うリスク）。

- 部分利確を繰り返しながら立ち回った場合、15万円程度の利益が出ます。あるいは含み益のまま両建てでGWをまたぐ選択もありです。
- 28780円で買ったまま29940円で決済した場合の利益は12.8万円です。



※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

## 日経現物に見るサイクル

# 月足：44-45ヶ月周期

月足レベルの株価は4年弱で1サイクルの周期で動いています。

## 相場観1（メイン仮説）

超長期はカップwハンドルの強気パターン。しかし年内にテーパリング（引き締め）を予想。現サイクルは、大菊と呼ぶ急騰フェーズによってカップ右縁のピークをつけ、その後、23年末に向けガラと呼ぶ大調整に移行。その後は景気復調で再上昇開始。



※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

## 相場観2（ブル延伸シナリオ）

コロナ後の経済正常化で想像以上の景気拡大。現サイクルは35Kあたりでピークアウトし、テーパリングの影響で調整するも29K近辺で底入れ。その後、大菊発動で89年バブル頂点に面合わせとなる39K付近でピークアウト。QE終了で大調整期に入る。



※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

## 週足サイクル：20週前後



※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

# 日足サイクル：20日前後

Published on investing.com, 24/Apr/2021 - 14:03:01 GMT, Powered by TradingView.

日経225先物, JP225, D

MA (25, close, 0)  
MA (50, close, 0)  
MA (200, close, 0)  
MA (75, close, 0)



※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

# 15分足サイクル：30本前後

<未完>

※チャートクリックで別ウィンドウに拡大表示。

スポンサーリンク

📁 FANS限定記事, [チャート分析](#), [テクニカル用語・指標](#), [トレード技法](#), [日経平均](#) 🔗 [Left-translated cycle](#), [LT](#), [Right-translated cycle](#), [RT](#), [サイクル](#), [チャート分析](#), [チャート解析](#), [テクニカル分析](#), [テクニカル解析](#), [トレンドレスサイクル](#), [ピーク右寄り](#), [ピーク左寄り](#), [ホットスポット](#), [上昇サイクル](#), [上昇波動](#), [下落サイ](#)

クル, 下落波動, 二番天井, 二番底, 時間と価格, 相場観, 矛盾を孕まない, 矛盾を孕んだ, 逆トレンド, 順トレンド, 高精度エントリー

 Posted by [クリモネ](#)

---



← Prev

[FANS] 重要記事03：年内  
大菊説と大菊延期説

Next →

[一般公開記事] ドレーダー  
三種の神器：相場観・価格  
・時間（抜粋）



## ☰ 関連記事



**[相場分析] アメリカの異常な売りを受け急ぎよ週足チェック**

コメント（2018.10.25朝） 昨日のアメリカは底入れの動きになるかどうか注 ...



**[仮想通貨四天王] 欧米とアジアでセンチメント乖離か？様子見妥当**

コメント 先週あたりからアメリカ時間に大きく下げ、アジア時間で戻す展開になってい ...



**[ビットコインとイーサリアム] 2連続陽線ならず。買いの手細く揉み合いか？**

コメント 今日分析対象をトップ2に絞る。新たにETH/BTCチャートを追加し両 ...



**[週末分析] 二番底はクラッシュ型か拡大調整型か？**

アメリカのメジャーSQ（トリプルウィンチング）通過後も上昇機運が高まらない状況を ...



**[日米市場とイールドカーブ] 順調な戻りだが、米銀行セクターの弱さは気になる**

コメント（2018.4.18） アメリカはXVR指数を見る限り順調な戻りになって ...

スポンサーリンク

## ディスカッション

### コメント一覧

まだ、コメントがありません

---

## クリプトマネダス

日経先物ミニ主体の専業トレーダー。

日米に現物株長期保有（ソニー、東エレ、アップル、グーグルなど）、今後は金銀投資に本腰。

元翻訳会社経営者（2019年末引退）。神奈川県出身、札幌市在住。A型、てんびん座。

ツイッター： @bchmatters

## 無料記事

 [インジケータとサイクル](#)

 [テクニカル講座](#)

 [テクニカル講座アネックス](#)

 [略語・ジャーゴンの意味](#)

 [投資格言](#)

 [サイトマップ](#)

## 有料記事（月額330円～）

[保護中]は[有料サービス](#)購読者向けの記事です。

## サイト更新情報

---

2021年5月22日

[\[FANS限定記事\] ミクロサイクルの活用（急落/急騰時のトレード技法・スカイトレード機会の増大）](#)

---

2021年5月22日

[\[FANS限定記事\] トレード三種の神器：相場観・価格・時間](#)

---

2021年5月22日

[\[一般公開記事\] ドレーダー三種の神器：相場観・価格・時間（抜粋）](#)

---

2021年5月15日

[\[FANS限定記事\] 銀と金の伸び率](#)

---

2021年4月26日

[★当サイトの略語・ジャーゴン早見表★](#)

---

2021年4月13日

[\[FANS\] 重要記事03：年内大菊説と大菊延期説](#)

---

2021年4月9日

[\[FANS限定記事\] 大菊シナリオは消滅したのか？](#)

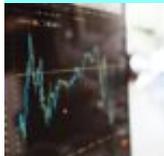
---

## よく読まれている記事



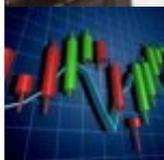
### ★当サイトの略語・ジャーゴン早見表★...

2018/11/03 に投稿された



### 簡単！テクニカル講座

2018/01/04 に投稿された



### [一般公開記事] ドレーダー三種の神器：相場観・価格・時間 (...)

2021/04/25 に投稿された



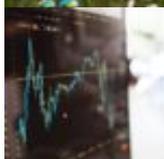
### トレードの実際：インジケータとサイクル...

2018/01/03 に投稿された



### [ゴールド相場再考] バブル局面入りは数年先か？...

2020/10/21 に投稿された



### 相場ティップ（トレードのヒント）：テクニカル編...

2018/06/01 に投稿された



### [金銀投資] ゴールドの底入れパターン2通り、シルバーは今が...

2020/11/24 に投稿された

## サイト内検索

## タグ

4時間足	BCH	BKX	BTC	EOS	ETH	LTC	S&P500	SOX	SPX	VIX
XRP	アメリカ市場	アメリカ株	イオス	イーサリアム	ゴールド	シルバー				
チャート分析	チャート解析	テクニカル分析	テクニカル解析	ドルインデックス	ドル円					
ナスダック	ニューヨークダウ	バブル	ビットコイン	ビットコインキャッシュ	ライトコイン					
リップル	上海総合指数	中国	仮想通貨	半導体指数	恐怖指数	日経先物	日経平均			
日経平均先物	日足	為替	米銀行株指数	週足	金鉱株	長期分析				

## アーカイブ

月を選択

## 最近のコメント

[金銀投資] ゴールドの底入れパターン2通り、シルバーは今が買い場の可能性 (11/27追記あり) に tokoshie80 より

[金銀投資] ゴールドの底入れパターン2通り、シルバーは今が買い場の可能性 (11/27追記あり) に うちゅー より

[金銀投資] ゴールドの底入れパターン2通り、シルバーは今が買い場の可能性 (11/27追記あり) に tokoshie80 より

[金銀投資] ゴールドの底入れパターン2通り、シルバーは今が買い場の可能性 (11/27追記あり) に うちゅー より

[長期展望] 半導体指数の歴史的ブレイクアウトは新産業本格化の狼煙となるはず に ライフ より

2021年4月

			1	<a href="#">2</a>	3	4
5	6	7	8	<a href="#">9</a>	10	11
12	<a href="#">13</a>	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	<a href="#">24</a>	<a href="#">25</a>
26	27	28	29	30		
<a href="#">« 3月</a>				<a href="#">5月 »</a>		

---